



# 特定

# 事業所 訪問 を

特定事業所加算を取得している事業所を訪問するこのコーナー。今関心のあること、力を入れていること、ざくばらんにうかがいます！

## 医療生協さいたま ケアセンターとこしん

(埼玉県所沢市)

### 医療連携の強みを生かし 定期巡回サービスで地域を丸ごと支える



荒井文子さん 所長、居宅管理者

ケアマネジャー 6名（4名常勤、2名非常勤）

特定事業所加算Ⅱを取得

前列右が所長の荒井さん。ぬいぐるみは、医療生協さいたまの「ココロン」

1999年に所沢市元町の所沢診療所内に開業し、2009年に現・宮本町へ移転しました。現在は居宅介護支援事業のほか、訪問看護、訪問介護、定期巡回型訪問介護看護、障害福祉サービスを行っています。隣接して同法人の通所リハビリ、介護付き有料老人ホームがあります。特定事業所加算は、2010年からⅡを取得し、Ⅲに変更になった時期を経て、2019年1月からはⅡを算定、現在に至ります。

法人全体では、2004年から品質マネジメントシステムISO9001を取得、手順書を作りながらサービスの標準化を行っています。職員が変わったから何もわからないではなくて、同じルールでのつとて運営しています。また、2009年からは事業運営ができているか、法人内事業所を相互乗り入れし、年1回

法令にのっとった内部監査を実施しています。

#### 医療連携が強みに

同一建物には所沢診療所があり、院長の中村隆光先生が在宅診療に力を入れていることもあって、医療連携が取りやすく、一番の強みになっています。2018年3月からは、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業」（以下、定巡）を行っています。中村先生が「24時間365日、何かあればすぐ飛んでいくよ」というスタンスで利用者・家族に伝えてくれるので、大変説得力があり助かっています。私たちの事業所は所沢市で4番目の定巡ですが、地域向けに力を入れているので、所沢市からも期待されています。

#### できること・必要なことを見極める

私たちの事業所では、病状に不安が出てきた方や、退院後で本人が生活していくか心配な方、1人暮らしの方に、定巡をご紹介しています。そして、生活状況を把握して、できること・支援が必要なことを確認しながらプランを調整していきます。定巡は毎日、利用者の生活にかかわりながら、何ができるか、どういう暮らしを望んでいるのかを見ることができます。このように定巡が、本人の望む生活に近づけていくためのツールにもなることがわかつきました。現在、定巡の利用者は26件ですが、半分は法人外のケアマネジャーからの依頼で、評判は大変よいですね。

## ICTの活用で遠方の家族の

### 安心に応える

所沢市は、子どもが自立して市外に住むなどで高齢者の一人暮らしや老夫婦が多い傾向にあります。自分のことは何とかできるし、家族も週1回ぐらいは訪問できるけれども、薬が飲めているかなどのちょっとした確認だけでも毎日してほしいという家族からの要望が多くなっています。このようなニーズに応えるため、定巡と訪問介護では、サービス内容の報告にICTを導入しています。例えば家族はスマホを見れば、ヘルパーさんが朝、何時に入って、どのような様子かをリアルタイムで分かるようなシステムになっているので、「本当にほっとする」と喜ばれています。

### 定巡をもっと知ってほしい！

定巡はその名のとおり、訪問看護師が必ず月一回様子を見に行きます。指示書もいらず料金も定額料金の範囲内。経営的には、国が介護度に合わせて定期巡回を決めてよいと言っているので、家族が来られる日は1回にするなど、折り合いをつけて調整しています。定巡は国が進めているだけあって、まさに“家が病室”で、「病室でナースコールを押すみたいに押してくださいね」と利用者には伝えています。また、普通の訪問介護は、「プランがないものは行っちゃダメ」となりがちですが、定巡は“随時”ですから「ちょっと様子を見に行きたい」というときも柔軟に対応できるので職員の満足度も高いですね。利用者さんも慣れてくると「いつも

でもいいよ」と言ってくれます。

本当に安心していただける良いサービスだと思っています。ただ、定巡を勧める上で苦労していることは、一番は料金面。訪問介護を週1、2回利用していた方や、2割負担の方などは月額なので金額が高くなる点です。ですので、介護保険の利用が初めての方にご案内するなど工夫をしています。

もう一つは、一般の方だけでなく、医療・介護関係者の方に定巡のサービスそのものを知ってもらう事にも苦労しています。医療連携推進会議を実施していますが、そこでは介護保険担当者、地域包括支援センター所長、町内会長、民生委員、地域住民代表として生協の組合員さん、病院相談員や看護長、訪問看護師、ケアマネジャー等が参加し、事業の報告、意見交換をします。民生委員の方など報告を聞いて、「まだ地域には定巡がどういうサービスか知らない方も多いのでぜひ地域の会合に出向いて話してください」と言われました。周知のための努力の必要性を感じています。

### 顔の見える関係づくりを大切に

今後も大切にしていきたいのは、利用者さんの暮らしを私たちが妨げないということ。そのために、顔の見える関係をつくっていく、その努力が一番



2階がケアセンターとこしん。全面ガラス張りの明るい事業所



販促グッズにも力を入れている。  
事業所オリジナルクリアファイルも（真ん中）

大事だと思っています。ほかにも、外部の事業所の方との顔の見える関わりは、事業所内のカンファレンスとはまた違い、持っている資源の情報交換ができたりと大変な刺激に。ほんの一例ですが、所沢包括地域で「とこ地区」という勉強会を隔月で地域のケアマネさんたちと実施したり、他事業所の事例検討会に参加し意見をもらったりしています。ほかにも認定調査は忙しいからやらないケアマネさんもありますが、地域のことがわかるし、どんな調査をすれば適切な介護度ができるかアセスメント力を高めるという意味で私はスタッフに勧めています。

私たちの事業所は、困難事例ほど引き受けるというスタンスを貫いています。困ったときには頼りにされる事業所でありたいし、それは特定事業所の使命だと考えています。